



編集・発行
 日蓮宗 能勢妙見山
 広報部
 〒563-0132
 大阪府豊能郡能勢町野間中
 電話 072-739-0329
 FAX 072-739-2883

5月15日 妙見大菩薩年大祭

毎月15日は妙見様のご縁日です

特別な功德をいただける日のご縁日ですが

能勢妙見山では5月のご縁日を年大祭として特別法要を厳修します

【5月の主な行事】

★写経会 11日(日) 11時

☆妙見大菩薩年大祭 15日(木) 11時

修法加持特別祈禱を厳修 事前受付中です

引き続き月例祈願法要 13時 於開運殿

妙見さまに願いを書いた兜矢を献納します

★鷓鴣月例祭 22日(木) 15時

火伏せ守りの黒札を授与します

●5月の清掃の日は休止します

【6月の行事予定】

★写経会 8日(日) 11時

★清掃の日 15日(日) 11時

★月例祈願法要 15日(日) 13時

★鷓鴣月例祭 22日(日) 15時

◎ご祈禱・御回向等のお申込はFAX・メールでも受け付けています

◎写経はご自宅でもできます お問い合わせ下さい

◎送迎バス 奉賛会会員並びにご信者様の便宜を図り、能勢電鉄妙見口駅から山上までの送迎車を用意

利用ご希望の方は、必ず2日前までに電話で連絡をお願いします 但しご希望に添えないこともあります

こどもの日

箕浦 溪介

爽やかな風薫る5月。カレンダーには休日を示す赤い文字が並びます。子供の頃はなぜかウキウキした気持ちになった気がします。特に5月5日の「こどもの日」は特別です。

昔から男の子に親しまれた端午の節句であります。しかし、この「こどもの日」は、決して男の子だけを対象としたものではなく、もちろん女の子も含むわけがあります。要するに季節的にも非常に良い時期で、こどもにゆかりのある日として決められたのです。この日は「こどもの人格を重んじこどもの幸福をはかるとともに、父母に感謝する日」といわれております。こどもの日が定められたことは、成人の日が取り上げられたことと共に、特に次の時代の人に大きな期待

をかけていることを表すものであって、すべての国民がこぞつてすべての子供を祝い、その幸福を囿ろうとするもので、更に子供の人格を尊重し、大人と同様に生きる権利を持つ一個の独立した人間として見ようとするものです。これに加えて、子供を育て上げるには父母のお陰であるから、こどもの日にはその父母に感謝しなければならぬという心が併せてその趣旨に含まれているのです。

誕生日は「母の受難の日」ともいわれていますが、子供を産むということは母親にとつては大変な事だと思われまます。取り分け、この苦しみを乗り越えて産んでくれた母親に対して感謝の気持ち植え付ける意義も含まれているわけですが、今「こどもの日」はご両親に感謝しなければならぬという意義を知っている人がどの位いるでしょうか。

日蓮聖人は『刑部左衛門尉女房御返事』に、「母の御恩の事、殊に心肝に染て貴く覚え候。母の御恩忘れ難し」と、母の恩は特別で、心と肝に染み込んでいます。そのご恩を忘れることはできないと説示されます。子供の成長を願うことはもちろんですが、この陰に隠れている両親、特に母親の苦勞をこども達に十分理解させることも大切なのではないのでしょうか。

妙見大菩薩年大祭

新年度に入つてひと月が経ちました。新しい環境にも馴染んできた頃でしょう。でも今までなかった事態に当惑することも少なくないのでは。困難を切り拓き、新たなステージへ進もうとする人々に力を与え、運命を開いて下さるのが妙見大菩薩です。5月15日は妙見さまの年大祭。パワーを戴いて下さい。

《法華經に学ぶ現代》

〜純智庵〜

衆を愍れむが故に

目線と目線のあり方は上から下へと見ないこと哀れむ心は大事だけれど

道を行ずるに

相手も人間 一つの目か自立したいと願つてる

恭敬の心を生ずべし

そんな思いを 大切に それぞれ 敬い会うならば

是れ則ち

我が大師なりと

『安樂行品第十四』

お互い師だと 云えるでしょう

知識まめ仏教

偈(げ)

梵語(サンスクリット)のガーターを音写したもの。伽陀・偈陀とも音写する。訳して諷誦、頌、また偈頌などという。

梵語經典の中に、仏の徳を賛嘆した教理を述べる韻律を持った詩句がみられる。またそれに準じて仏教の真理を詩の形で述べた文がみられる。漢訳するときも同様に、詩句の形で訳され、たとえば寿量品の中の自我偈、「此經難持」で始まる宝塔偈などはご存じの方も多いことだろう。本文とは異なり四字あるいは五字で表されており、読みやすく覚えやすい。本文の内容を要約し、大事な教説を簡潔に表現した偈もある。お経を習うとき、まず自我偈から始めるのが一般的で、なじみが深い。ただ和訳文は言語の違いの故、韻律を調えにくかったようである。